

にっぽん丸クルーズレポート

工藤様ご夫妻

(乗船コース：飛んでクルーズ北海道Eコース)

9月9日から4日間の「飛んでクルーズ北海道Eコース」は礼文・羅臼を巡る内容で、小樽港から予定通り出航しました。

その際迫力満点の太鼓で見送られ、それに対して皆ペンライトで大きく手を振り声を合わせて「行ってきます！」。いよいよ待ちに待ったクルーズの始まりです。

客室に入ると整頓された居心地よい空間と海を見渡せる窓があり、安心してくつろげるスペースがそこには用意されていました。

机上の船内新聞第1号を読むとその日の船内のイベントスペースと時間割り当て、食事スケジュールなどが一目で分かります。初日の目玉はハウスバンドによる「コンサート」と「落語」です。落語は初めてでしたがすぐに話に引き込まれ気づけばそこで笑っていました。



翌朝目覚めると窓には既に礼文島が見えていました。

島での私たちの目的は「桃岩展望台コース」のトレッキングとその先にある「北のカナリアパーク」です。

片道2キロを歩き、映画「北のカナリアたち」のロケ地へ無事に到着、主演の吉永小百合さんパネルに迎えられました。

校舎の横にはくっきりはっきりと利尻富士が見渡せるとても素晴らしい景色でした。

お昼は炉ばたのお店で礼文名物「ホッケのちゃんちゃん焼き」を煙で真っ白になりながら口にほおばりました。



船に戻り海が見えるグランドバス（大浴場）でリフレッシュ、その後はプールサイドのテーブルでゴディバのショコリキサーを味わいゆったりとした時間を過ごしました。



2日目のメインイベントは北海学園大学のチームの迫力ある「ヨサコイ」。それと真っ暗なデッキで見上げる最高の夜空で行われる「星空教室」。海の上で見える星空はまた格別でした。

その夜の夕食は「北海道ディナー」で北海道の旬の食材をふんだんに使ったスペシャルな内容を十分堪能しました。

3日目の朝、またしても景色が変わり知床半島が悠然と立ちはだかっています。

羅臼では「羅臼国後展望台」へ足を運び、その後羅臼町公民館で開かれる「知床・羅臼ダイニング」へ移動、地元でとれた食材を使ったお料理を用意されたお皿にぎゅうぎゅうに詰めていざ美食。羅臼の方々からのおもてなしの心と新鮮な海の幸で大満足な内容でした。

船に戻ればラウンジでアフタヌーンティーが待っています。日替わりのケーキをピアノの生演奏と。至福の時。



夕暮れ時、久保船長から夕日が海に沈む一瞬、緑色に光る現象「グリーンフラッシュ」が見られるというアナウンスがあり、デッキに出ると幸いにもその瞬間に立ち会う事が出来それがあまりにも美しく幻想的だったのでとても感動しました。

豪華ディナーの後にはホールにてノンアルコールもある「カクテルパーティー」。そして元タカラジェンヌの「RiRiKAさんのコンサート」が始まり、一緒に声を合わせて歌い、夜も更け「カジノラウンジ」ではルーレットゲームに熱狂しました。

充実した盛りだくさんの素敵な最後の夜を過ごしました。



最終日。今回のクルーズがいよいよ今日で最後だと思えば寂しい気持ちもありましたが、まだまだ下船までは楽しいイベントが目白押しです。普段入れないような「操舵室見学」で見たこともない計器類に驚き、にっぽん丸スタッフさん達による「寄席」で大笑い、景品が当たるビンゴゲームに皆、白熱し…、ああこの数日なんて楽しかったのだろう。

食事は和食、洋食、洋風ビュッフェどれも手が込んでいて大変贅沢なものでしたし、にっぽん丸スタッフの皆さんが礼儀正しく笑顔で気持ち良くおもてなしして頂けたのが印象的でした。



船内各場所での趣向を凝らしたイベントやシアタールーム、ジムスタジオなどの専用ルーム、そして船内の一部を除いてほとんどの飲食サービスも含まれているとなるともう時間が足りないくらいです。

今回寄港地については単独で行動しましたがオプションツアーの用意もあり、ツアーデスクで相談することも可能でした。そして万が一体調が悪くなってしまった場合にもクリニックがあるので安心感もありました。

至れり尽くせり、極上のサービスが受けられ日常とかけ離れた別世界へいざなってくれる「クルーズ」という楽しみと今回出会う事が出来て本当に良かったと思っています。

新幹線や飛行機とはまた違う新たな旅行の選択肢になりそうです。さて次回はどの船でどこへ行こうか・・・わくわくしながらプランを立てています。

